

令和6年度開講科目 講義シラバス

**理学療法学科
夜間コース
1年**

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

令和6年度 年間予定
理学療法学科(夜間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
前期	入学式 4月4日(木)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	
	面談 4月1日(月) ~ 随時		面談 4月1日(月) ~ 随時		
	講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		
	補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		
	夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		
	再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		
					講義 4月8日(月) ~ 4月19日(金)
後期					臨床実習Ⅲ 4月22日(月) ~ 6月14日(金)
					臨床実習Ⅳ 6月24日(月) ~ 8月30日(金)
					合同就職説明会 6月22日(土)
	講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		学内就職説明会 9月5日(木)
	補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		講義および国家試験対策 9月2日(月) ~ 2月14日(金)
	冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		第60回 国家試験 2月16日(日)予定
	再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		
臨床実習Ⅰ 2月3日(月)~ 3月1日(土)		臨床実習Ⅱ 2月3日(月) ~ 3月15日(土)		卒業証書授与式 3月4日(月)	
春季休業 3月10日(月) ~ 3月31日(月)		春季休業 3月18日(火) ~ 3月31日(月)			

学校法人 巨樹の会		小倉リハビリテーション学院		理学療法学科		夜間コース		カリキュラム							
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		4年		時間数	単位数		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人文科学	心理学			30						30	2		
			統計学						30				30	2	
		自然科学	情報処理							30			30	2	
			物理学	30									30	2	
		コミュニケーション学	基礎教養		30								30	2	
			対人関係演習Ⅰ	30									30	2	
		対人関係演習Ⅱ		30							30	2			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30								30	2		
			解剖学Ⅱ		30								30	2	
		生理学	生理学Ⅰ	30									30	2	
			生理学Ⅱ		30								30	2	
		運動学	運動学Ⅰ	60									60	4	
			運動学Ⅱ		30								30	2	
			運動学演習Ⅰ	30									30	2	
			運動学演習Ⅱ		30								30	2	
		人間発達学	人間発達学			30							30	2	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30									30	2
				リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30								30	2
			臨床医学総論	医学概論		30								30	2
	病理学概論					30							30	2	
	臨床医学各論		整形外科学			30							30	2	
			内科学			30							30	2	
		神経内科学			30							30	2		
		臨床心理学					30					30	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30									30	2	
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30									30	2	
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ		30							30	1	
				基礎理学療法学Ⅱ				30					30	1	
				生活機能演習						30				30	1
		理学療法管理学	臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ				30					30	2	
				臨床運動学演習Ⅱ					30				30	2	
理学療法評価学		理学療法評価学	理学療法管理学						30				30	2	
			基礎評価学演習Ⅰ		60								60	2	
			基礎評価学演習Ⅱ			60							60	2	
			基礎評価学演習Ⅲ				60						60	2	
			臨床評価学演習Ⅰ		30								30	1	
			臨床評価学演習Ⅱ			30							30	1	
		運動療法学	運動療法学	運動療法学演習				60					60	2	
				物理療法学					30					30	1
			日常生活活動学	義肢装具学	日常生活活動学演習Ⅰ			30						30	1
					日常生活活動学演習Ⅱ				30					30	1
			疾患別理学療法学	義肢装具学	義肢学					30				30	1
					装具学						30				30
中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ							60						60	2	
中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ								60					60	2	
運動器疾患の理学療法学Ⅰ								60					60	2	
運動器疾患の理学療法学Ⅱ									60				60	2	
理学療法治療学		理学療法総合学習		内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ					60					60	2
				内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ						60				60	2
				小児疾患の理学療法学				30						30	1
				理学療法学技術演習Ⅰ						60				60	2
				理学療法学技術演習Ⅱ							60			60	2
				理学療法学総合学習Ⅰ								60		60	2
地域理学療法学		地域理学療法学	理学療法学総合学習Ⅱ							60		60	2		
			理学療法学総合学習Ⅲ							60		60	2		
臨床実習		臨床実習	生活環境学					30					30	2	
			地域理学療法学演習							30			30	2	
			臨床実習Ⅰ		45								45	1	
			臨床実習Ⅱ							45			45	1	
			臨床実習Ⅲ							360		360	8		
			臨床実習Ⅳ							450		450	10		
基礎分野				60	60	30	0	0	60	0	0	210	14		
専門基礎分野				240	180	150	60	0	0	0	0	630	42		
専門分野				0	120	120	330	300	300	30	180	1380	51		
実習				0	45	0	0	0	45	810	0	900	20		
前期・後期小計				300	405	300	390	300	405	840	180				
前後期合計				705		690		1245		3300		3120	127		

* 基礎分野：講義15～30時間1単位

* 専門基礎分野：講義・演習5～30時間1単位
実習30～45時間1単位

* 専門分野：同上

* 臨床実習：40～45時間1単位

I . 基礎分野

講義科目	物理学					
担当講師	松浦 優太				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	物理学で学習すること		①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学			
2	物理量とその表し方 (1)		①物理量 ②ベクトル量とスカラー量			
3	物理量とその表し方 (2)		①大きい数, 小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算			
4	物理学で使うグラフと関数 (1)		①数式とグラフ ②三角関数 (1)			
5	物理学で使うグラフと関数 (2)		①三角関数 (2) ②ベクトルの計算			
6	いろいろな運動 (1)		①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動			
7	いろいろな運動 (2)		①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射			
8	さまざまな力 (1)		①力とは、力の単位 ②重力 ③張力			
9	さまざまな力 (2)		①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力			
10	力のつり合いと運動の法則 (1)		①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則(ニュートンの第 1法則) ③遠心力			
11	力のつり合いと運動の法則 (2)		①運動方程式(ニュートンの第 2法則) ②作用反作用の法則(ニュートンの第 3法則)			
12	物体の重心と回転運動 (1)		①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方			
13	物体の重心と回転運動 (2)		①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのでこ			
14	運動量, 仕事とエネルギー (1)		①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー			
15	運動量, 仕事とエネルギー (2)		①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則			
教科書	書籍名			著者		出版社
	PT・OTゼロからの物理学			望月久・棚橋信雄		羊土社
参考 図書等						
授業 方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験	
履修上の 注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。					

講義科目	基礎教養		
担当講師	篠崎 康次		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 ・文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。 ・文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。 		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	・国語力の把握と目標の確認	①表現に関する導入問題を解き、理解度を確認する。 ②講義目標及び予定についての説明を受ける。 ③始めに250字程度の課題文を作成する。	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味と用法について ・意見文の構成について ・二段構成の意見文の作成(1回目) 	①語句の意味・正しい使い方を理解する。 ②意見文の構成と意見を支える事実の表現の仕方について説明する。 ③250字程度の二段構成意見文を作成する。	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味と用法について ・意見文の事実について確認する 	①語句の意味・使い方、接続関係について理解する。 ②前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・文法的な正しさについて ・二段構成の意見文の作成(2回目) 	①文法的に正しい語句の使い方を理解する。 ②250字程度の二段構成意見文の2回目を作成する。	
5	・通信文の書き方(1回目)	①通信文(縦書き)の基本の型を理解する。 ②通信文の約束事を確認する。(構成、頭語と結語、時候の挨拶等) ③前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・文法的な正しさについて ・三段構成の意見文について(1回目) 	①文法的に正しい表現、わかりやすい表現について理解する。 ②三段構成意見文の構成について説明する。 ③300字程度の三段構成意見文を作成する。	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい表現について ・三段構成意見文の理由について 	①分かりやすい表現、適切な表記について理解する。 ②前回後世の三段構成意見文の問題点を確認する。 ③三段構成意見文の理由の述べ方について説明する。	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・三段構成意見文の作成(2回目) 	①敬語の基本について理解する。 ②300字程度の三段構成意見文を作成する。	
9	・通信文の書き方(2回目)	①通信文(記書き)の基本型について理解する。 ②前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・三段構成の文章作成(3回目) 	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③300字程度の三段構成意見文を作成する。	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章の書き方(四段構成) 	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③四段構成論説文の書き方理解と前回作成文章の問題点を確認する。	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成(1回目) 	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③400字程度の四段構成論説文を作成する。	
13	・通信文の書き方(3回目)	①縦書き通信文と比較しながら、横書き通信文の基本型を理解する。 ②前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成(2回目) 	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③400字程度の四段構成論説文を作成する。	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章作成について 	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。	
教科書	書籍名		著者
	講義テキスト(テキスト・問題)		篠崎康次
参考図書等	文章検 公式テキスト 3級		公益財団法人日本漢字能力検定協会
	基礎から学べる! 文章力ステップ 文章検3級対応		公益財団法人日本漢字能力検定協会
授業方法	講義形式・演習形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。
履修上の注意	文章が上手くなるには繰り返し書くことですが、ただ繰り返し書けばよいわけではありません。そこで、講義では必要な知識の学習と並行して段階的に文章を書いていきますので、しっかり取り組んで文章を書けるようになります。		

講義科目	対人関係演習 I					
担当講師	波多野 浩子			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。				
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。				
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。				
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)				
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム				
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。				
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。				
8	人間関係①	①障がい者の家族関係(グループディスカッション) ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係(グループディスカッション) ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。				
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。				
12	施設実習 I -①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
13	施設実習 I -②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
14	施設実習 I -③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
15	振り返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	ケア・コミュニケーション(電子版付)		松田 美幸		ウイネット	
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術		矢口拓宇		秀和システム	
授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート(5割) 施設実習の評価(5割)		
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。					

講義科目	対人関係演習Ⅱ					
担当講師	波多野 浩子				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	オリエンテーション		①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。			
2	ボランティア活動について		ボランティア活動の意義について理解することが出来る			
3	情報収集		フィールドワーク内容について情報収集を行い、課題を選択できる			
4	フィールドワーク企画①		自らが選択した課題について計画立案が出来る			
5	フィールドワーク企画②		自らが選択した課題について計画を発表することが出来る			
6	フィールドワークの実践①		現地研修			
7	フィールドワークの実践②		現地研修			
8	フィールドワークの実践③		現地研修			
9	フィールドワークの実践④		現地研修			
10	発表と相互評価		課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う			
11	発表と相互評価		課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う			
12	課題の振り返り		事後報告としてレポート作成をすることが出来る			
13	人間関係について		人間関係について自らの考えをまとめることが出来る			
14	患者との人間関係について		患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る			
15	地域における人間関係		地域における人間関係についてグループ発表をすることが出来る			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	特に指定しない					
参考図書等	特に指定しない					
授業方法	グループワーク、フィールドワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。		
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。					

II. 專門基礎分野

講義科目		解剖学 I					
担当講師		秋山 嘉和 宮崎 祐二			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科	1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および末梢神経系の形態と構造を理解する。 循環器系の構造を理解する。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)					
1	総論、組織	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ③人体の発生の概要を理解する。					
2	骨学(関節靭帯を含む) 骨学総論、関節靭帯総論	①骨の形態・構造および骨の血管と神経について理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。					
3	骨学(関節靭帯を含む) 頭蓋	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。 ②頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ③頭蓋の連結:縫合と顎関節を理解する。					
4	骨学(関節靭帯を含む) 脊柱、胸郭	①脊柱の外観及び椎骨基本的形態及び特徴を理解する。 ②胸郭の外観及び胸郭を構成する骨を理解する。 ③脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結を理解する。					
5	骨学(関節靭帯を含む) 上肢	①上肢帯および自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯および自由上肢骨、手の連結を理解する。					
6	骨学(関節靭帯を含む) 下肢	①下肢帯および骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯および骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。					
7	筋学:筋学総論	①筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ②骨格筋の作用を理解する。 ③骨格筋の神経支配を理解する。					
8	筋学:上肢の筋①	①上肢帯の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②上腕の筋の起始停止走行作用を理解する。					
9	筋学:上肢の筋②	①前腕の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②手内筋群の起始停止走行作用を理解する。					
10	筋学:下肢の筋①	①下肢帯の筋の起始停止走行作用、殿部深層の血管・神経を理解する。 ②大腿の筋の起始・停止・走行・作用を理解する。 ③大腿(断面)の大腿筋間中隔および血管・神経の位置を理解する。					
11	筋学:下肢の筋②	①下腿の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②足の筋の起始停止走行作用を理解する。					
12	筋学:顔面・体幹の筋	①頭部の筋(表情筋・咀嚼筋群・頸部の筋)の起始停止作用を理解する。 ②胸部・腹部・背部の筋の起始停止作用を理解する。					
13	循環器系①	①血管の構造と役割を理解する。 ②心臓の位置・構造・役割を理解する。					
14	循環器系②	①大循環と小循環の違いと役割を理解する。 ②動脈系の経路を理解する。※代表的な動脈を覚える。					
15	循環器系③	①静脈系(門脈系を含む)の構造と機能を理解する。 ②リンパ系の構造と機能を理解する。					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】		野村 巖 編		医学書院		
参考図書等	人体解剖アトラス		佐藤 達夫 訳		南江堂		
	消って忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編		羊土社		
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	解剖学Ⅱ					
担当講師	岡部 貴文 波多野 浩子			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能(呼吸・代謝・成長など)ならびに意識的感觉や精神機能に関わる形態・構造を理解する。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	内臓学総論	①人体の発生を理解する。 ②まとめ				
2	内臓学①	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②消化器系の内臓を理解する。 ③消化管の基本構造と附属腺の構造と機能を理解する。				
3	内臓学②	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②気管と気管支、肺の構造を理解する。				
4	内臓学③	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②腎臓・尿管・膀胱の構造を理解する。 ③生殖器系、内分泌系の構造を理解する。				
5	神経系総論①	①神経系の区分を理解する。 ②神経系の構造を理解する。				
6	神経系総論②	①髄膜と脳室を理解する。 ②神経系の発生を理解する。				
7	中枢神経系①	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。 ②大脳基底核の構造と役割を理解する。 ③間脳の構造と役割を理解する。				
8	中枢神経系②	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面(神経路と脳神経核)を理解する。				
9	中枢神経系③	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。				
10	中枢神経系④	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面(灰白質と白質の違い)を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。				
11	中枢神経系⑤	①上行性伝導路(体性感覚、視覚、聴覚)を理解する。 ②下行性伝導路(錐体路、錐体外路)を理解する。				
12	末梢神経系①	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。				
13	末梢神経系②	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。				
14	感覚器系	①皮膚構造を理解する。 ②特殊感覚(特に視覚、聴覚)の構造と役割を理解する。				
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。				
教科書	書籍名		著者	出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】		野村 巖 編	医学書院		
参考図書等	Qシリーズ 新解剖学		加藤 征 監修	日本医事新法社		
	図解解剖学辞典		山田 英知 監修	医学書院		
	人体解剖カラーアトラス		佐藤 達夫 訳	南江堂		
	消って忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編	羊土社		
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	生理学 I		
担当講師	笹田 由紀子		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的(植物)機能を理解する。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	生理学の基礎 I 細胞膜	細胞の構造を学び、核と細胞小器官の役割および細胞膜の構造と機能を理解する。	
2	生理学の基礎 II 物質輸送	輸送体、受容体、能動輸送、サイトシスについて学び、細胞膜を介した生体分子の動きを理解する。	
3	生理学の基礎 III エネルギー生成	細胞内の解糖系とミトコンドリアにおける酸化的リン酸化を学び、細胞がどのようにして ATPを生成しているのかを理解する。	
4	消化と吸収 I	摂取した食物が咀嚼と嚥下、蠕動運動によって体内に運ばれるメカニズムと、消化に係わる胃、膵臓および胆嚢の消化液の役割を理解する。また、消化に関わる神経系について理解する。	
5	消化と吸収 II	小腸の吸収性上皮細胞における膜消化を学ぶとともに、排便のメカニズムを理解する。	
6	消化と吸収 III	三大栄養素である糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収について学び、どのような消化管ホルモンが働くのかを理解する。	
7	まとめ	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
8	呼吸と血液 I	内呼吸と外呼吸の違いを学び、呼吸運動のメカニズムとスパイログラムを理解する。	
9	呼吸と血液 II	血液ガスの交換と運搬機構、および酸素解離曲線の意味を理解する。さらに、呼吸中枢による調節機構を理解する。	
10	呼吸と血液 III	血液の成分と血球の機能や血液凝固について理解する。さらに血液型とは何かを理解する。	
11	血液の循環 I	固有心筋・特殊心筋の役割を学び、刺激伝導系について理解する。	
12	血液の循環 II	心電図の波形を理解する。また、心周期や前負荷・後負荷について理解する。	
13	血液の循環 III	収縮期血圧と拡張期血圧について学習し、血圧の調節機構である減圧(昇圧)反射やレニン-アンジオテンシン系を理解する。	
14	血液の循環 IV	微小循環と胎児循環、リンパ系の役割を理解して浮腫が生じる機構を学ぶ。	
15	まとめ	8-14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学【電子書籍】	坂井建雄・岡田隆夫 著	医学書院
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能	片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎	佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消して忘れない生理学要点整理ノート	佐々木 誠一 編集	羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	生理学Ⅱ		
担当講師	笛田 由紀子	授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	ヒトの動物性功能を理解する。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	体液の調節と尿Ⅰ	尿の生成について腎臓の機能単位であるネフロン機能を通して学び、濾過と再吸収の機能を理解する。バソプレシンやアルドステロンによる調節機能とクリアランスの生理学的意義を理解する	
2	体液の調節と尿Ⅱ	水の出納バランスによる体液調整について、脱水、排尿の機能をとおして理解する。体液の電解質バランスの異常と病態について理解する。	
3	神経系の基礎	ニューロンの形態と機能を学び、静止電位と活動電位の生成メカニズムを理解する。軸索伝導とシナプス伝達の特徴を理解し、シナプス電位である EPSPとIPSPの違いを理解する。	
4	内臓機能の調節Ⅰ	自律神経系が交感神経系と副交感神経によって構成され、生体の機能のバランスが調整されていることを理解する。	
5	内臓機能の調節Ⅱ	内分泌・傍分泌とは何かを理解し、それら分泌に関与する受容体やセカンドメッセンジャーについて学び、理解する。	
6	内臓機能の調節Ⅲ	下垂体・甲状腺・膵臓・副腎における内分泌機能を理解する。神経内分泌とは何かを理解する。	
7	まとめ	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
8	情報の受容と処理Ⅰ	中枢神経系が脳と脊髄によって構成されることを学び、特に脳各部位の機能を理解する。	
9	情報の受容と処理Ⅱ	脳神経と脊髄神経について学び、運動(遠心性)の伝導路を理解する。	
10	情報の受容と処理Ⅲ	感覚(求心性)の伝導路を理解する。疼痛の機序について理解する。	
11	情報の受容と処理Ⅳ	脳から派生する電位である脳波の分類と、睡眠の関係を理解する。記憶に関与する部位や情動の発現に関与する脳部位を理解する。	
12	情報の受容と処理Ⅴ	視覚に関与する網膜の杆体と錐体の機能を理解する。眼球運動について理解する。	
13	情報の受容と処理Ⅵ	聴覚、平衡覚、味覚および嗅覚のメカニズムについてそれぞれ理解する。	
14	外部環境からの防御	非特異的防衛機構および特異的防衛機構を学び、体の免疫機構について理解する。	
15	まとめ	8-14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学【電子書籍】	坂井建雄・岡田隆夫 著	医学書院
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能	片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎	佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消して忘れない生理学要点整理ノート	佐々木 誠一 編集	羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目		運動学 I					
担当講師		岡部 貴文 長嶺 翔吾			授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	4
教育目標		<p>身体の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経)と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。</p>					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	運動学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する		16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足		17	上肢帯と肩関節の構造と 運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する	
3	骨の分類と構成	骨の基本構造・骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。		18	上肢帯と肩関節の構造と 運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する	
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる		19	上肢帯と肩関節の構造と 運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する	
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造(形状と分類・軸・代表的な関節の観察)を理解する		20	上肢帯と肩関節の構造と 運動④	肩甲上腕リズム 上腕二頭筋長頭と肩関節を理解する	
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足		21	肘関節と前腕の構造と運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する	
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する		22	肘関節と前腕の構造と運動②	生理的外反肘・ヒューター線(三角)を理解する 前腕骨間膜について理解する	
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する		23	肘関節と前腕の構造と運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋3つのでこの関係性について理解する	
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する		24	手関節と手の構造と運動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する	
10	筋収縮について②	筋張力を理解する		25	手関節と手の構造と運動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する	
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する		26	手関節と手の構造と運動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る	
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する		27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する		28	脊柱・体幹の構造と運動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する 脊椎に関わる靭帯の機能を理解する	
14	筋と神経②	α - γ 連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する		29	脊柱・体幹の構造と運動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎・胸郭・腰椎の構造と運動について理解する	
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的变化を理解する		30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	基礎運動学 第6版 補訂【電子書籍】			中村隆一他		医歯薬出版	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】			野村 巖 編		医学書院	
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 /運動器系			坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	運動学Ⅱ					授業時間数	30
担当講師	秋山 嘉和 奥之山 峻				単位数	2	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2	
教育目標	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 姿勢保持機構と正常歩行について理解する。						
No	講義計画			行動目標(学習目標)			
1	脊柱・体幹の構造と運動③			呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する			
2	脊柱・体幹の構造と運動④			脊柱の動筋について理解する 表情筋・咀嚼筋について理解する			
3	下肢帯と股関節の構造と運動①			仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する			
4	下肢帯と股関節の構造と運動②			靭帯の走行と運動制限を理解する			
5	下肢帯と股関節の構造と運動③			股関節の動筋について理解する			
6	膝関節の構造と運動①			膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する			
7	膝関節の構造と運動②			靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する			
8	足関節の構造と運動③			足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する			
9	足関節の構造と運動④			靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する			
10	姿勢			重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する			
11	活動に関わる身体機能と構造①			歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する			
12	活動に関わる身体機能と構造②			正常歩行における床反力について理解する			
13	活動に関わる身体機能と構造③			正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する			
14	活動に関わる身体機能と構造④			効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する			
15	振り返り			学習の習熟度に合わせ補足			
教科書	書籍名		著者		出版社		
	基礎運動学 第6版 補訂【電子書籍】		中村隆一他		医歯薬出版		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】		野村 巖 編		医学書院		
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 /運動器系		坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院		
授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験。			
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	運動学演習 I					
担当講師	林 輝真				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを 3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	概論(オリエンテーション) 筋の機能と形態的变化		動筋・拮抗筋・固定筋・安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的变化について理解する。			
2	上肢上部総論		肩甲骨・上腕骨の骨指標を理解する。			
3	肩甲骨周囲の筋①		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
4	肩甲骨周囲の筋②		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
5	肩甲骨周囲の筋③		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
6	肩関節の筋①		肩関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
7	肩関節と肘関節の筋①		肩関節・肘関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
8	上肢下部総論		橈骨・尺骨・手根骨の骨指標を理解する。			
9	前腕の屈筋①		前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
10	前腕の屈筋②		前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
11	前腕の伸筋①		前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
12	前腕の伸筋②		前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
13	手内在筋・手外在筋		手内在筋・手外在筋について、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
14	上肢筋の支配神経		神経の走行とその支配筋について理解する。			
15	まとめ		学習の習熟度に合わせ補足			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】		野村 巖 編		医学書院	
	基礎運動学【電子書籍】		中村 隆一		医歯薬出版	
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		坂井 建雄・村松 譲児		医学書院	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)		青木 隆明		メジカルビュー社	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)		青木 隆明		メジカルビュー社	
授業 方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験(70%) 演習時の課題(30%)		
履修上の 注意	演習を中心に実施していくため、実技着を着用すること。					

講義科目	運動学演習Ⅱ					
担当講師	宮崎 祐二				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを 3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	下肢上部総論		骨盤・大腿骨・脛骨腓骨上部の骨指標を理解する。			
2	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋①		股関節の前面・後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
3	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋②		股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
4	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋③		股関節の外旋筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
5	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋④		股関節の内転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
6	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋⑤		大腿前面及び後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
7	下肢下部総論		下腿骨下部・足部の骨指標を理解する。			
8	下腿骨下部・足部の筋①		下腿前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
9	下腿骨下部・足部の筋②		下腿後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
10	下腿骨下部・足部の筋③		下腿後面及び外側の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
11	下肢筋の支配神経		神経の走行とその支配筋について理解する。			
12	下肢筋の整理		下肢筋の位置関係と各筋の作用、支配神経について整理する。			
13	頭部及び体幹総論		頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。			
14	体幹前面の筋		体幹前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。			
15	体幹後面の筋		体幹後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学【電子書籍】		野村 嶺 編		医学書院	
参考図書等	基礎運動学【電子書籍】		中村 隆一		医歯薬出版	
	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		坂井 建雄・村松 譲児		医学書院	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)		青木 隆明		メジカルビュー社	
授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験(70%) 演習時の課題(30%)		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)			青木 隆明		メジカルビュー社
履修上の注意	演習を中心に実施していくため、実習着を着用すること。					

講義科目	リハビリテーション基礎医学 I					
担当講師	河瀬 直也				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	オリエンテーション・総論		リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。			
2	運動と筋		筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要となる栄養素及び酸素について理解する。			
3	栄養学の基礎		3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。			
4	運動と呼吸①		呼吸のメカニズムの基礎を理解する			
5	運動と呼吸②		運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する			
6	運動と循環①		循環器のメカニズムの基礎を理解する			
7	運動と循環②		運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する			
8	運動と神経		運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する			
9	運動とホルモン		運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する			
10	運動と体温調節		体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する			
11	体力の測定		体力の中でも特に、持久力の指標について理解する			
12	運動量の測定		運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる			
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防		加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する			
14	栄養療法の活用		主な病態に対する栄養療法を理解する			
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命		運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法 (救急救命)を理解する			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	入門運動生理学		勝田 茂		杏林書院	
参考図書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎		栢下淳 若林秀隆		医歯薬出版	
	生化学・栄養学		内山 靖 編		医歯薬出版	
	生体のしくみ標準テキスト(電子書籍)		高松 研		医学映像教育センター	
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。					

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ		
担当講師	新小文字病院 医療技術部	授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する。	
2	四肢の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
3	四肢の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
4	胸腹部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
5	胸腹部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
6	頭頸部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
7	頭頸部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する。	
9	薬物療法総論	リハビリテーションに関連する薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する。	
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用についてリハビリテーションと関連づけて理解する。	
11	血圧に関与する薬物療法	血圧(特に降圧)に関与する薬物療法について理解する。	
12	血栓に関する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する。	
13	疼痛に関する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する。	
14	代謝に関する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する。	
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた	水間正登 編集	南江堂
	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学	内山靖・藤井浩美・立石雅子	医歯薬出版
参考 図書等	解剖生理学	坂井建雄	医学書院
授業 方法	講義形式にて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。		

講義科目	医学概論					
担当講師	河瀬 直也				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	医療倫理、健康と病気概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	医学の倫理		オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント			
2	医療の歴史		ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史			
3	健康・病気・医学の体系		健康とは、病気の理解と分類			
4	病気の原因		病理学とは、病気の原因			
5	病気による身体の変化①		血行障害による病変、進行性・退行性の変化、炎症			
6	病気による身体の変化②		腫瘍			
7	神経疾患について		神経疾患の病態生理			
8	運動器疾患について		運動器疾患の病態生理			
9	内部疾患について		内部疾患の病態生理			
10	病気の診断		診断の方法			
11	病気の治療		治療法の概要			
12	病気の予防		予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防			
13	医療システム		わが国の医療システムとその役割			
14	死の判定		ターミナルケア、尊厳死			
15	リハビリテーションとは		リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	リハビリテーションビジュアルブック		稲川 利光 (編集)		学研	
参考図書等	現代医学概論		柳澤信夫		医歯薬出版	
	学生のための リハビリテーション医学概論		栢森良二		医歯薬出版	
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。					

講義科目	リハビリテーションと理学療法 I					
担当講師	藤本 一美				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院・診療所(訪問リハ含む)において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェッショナルリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	学修の在り方の理解		講義、教科書、参考文献から重要事項や課題点・目標などを設定できる。得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを表現できる。			
2	理学療法士の定義		理学療法士の役割について知る			
3	医療倫理と理学療法倫理		倫理の原則について理解し、遵守して実践できる 医療及び理学療法の倫理に関する規範・原則を説明できる			
4	理学療法士の活動分野1		理学療法士の活動分野について理解する			
5	理学療法士の活動分野2		理学療法士の活動分野について理解する			
6	理学療法士の活動実践1		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
7	理学療法士の活動実践2		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
8	理学療法士の活動実践3		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
9	理学療法士の活動実践4		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
10	対象者の理解		インフォームドコンセントの必要性について理解する 障害受容過程について理解する			
11	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて考える①			
12	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて考える②			
13	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて発表する			
14	理学療法教育・臨床実習		理学療法教育の歴史について理解できる 臨床実習の目的について理解できる			
15	理学療法士に必要な能力		臨床現場で求められる能力について理解し、自らの課題について考えることができる			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法概論テキスト		細田 多穂 監修		南江堂	
参考 図書等	理学療法学テキスト I 理学療法学概論 第4版		千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精一		神陵文庫	
	リハビリテーション職種のキャリア・デザイン		大町 かおり 高木 綾一		シービーアール	
	リハビリテーションビジュアルブック		編集:稲川利光		学研	
授業 方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出課題		
履修上の 注意	リハビリテーション専門職となるための入門授業である。 実際のリハビリテーションの在り方を学び、将来の自己イメージを高めて下さい。					

講義科目	リハビリテーションと理学療法Ⅱ					
担当講師	坪田 和英				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	社会保障制度		保健医療福祉施策の動向について理解することができる			
2	医療保険制度		医療保険制度について理解することが出来る			
3	介護保険制度		介護保険制度について理解することが出来る			
4	障害者総合支援法		障害者総合支援法について知る 就労支援及び自立支援について知る			
5	地域包括ケアシステム		地域包括ケアシステムの概要について知る			
6	理学療法士・作業療法士とは		理学療法士及び作業療法士法について理解する。 法令に基づく理学療法士の在り方について理解する。			
7	関連職種の理解と関わり方1		リハビリテーション医療とは何か理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価			
8	関連職種の理解と関わり方2		リハビリテーション医療とは何か理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価			
9	障害のとらえ方1		国際生活機能分類			
10	障害のとらえ方2		事例検討			
11	予防医療		予防の概念について理解する 予防理学療法とはどのような内容か説明できる			
12	コンプライアンス・個人情報管理について		コンプライアンスとは何かについて説明できる。 個人情報とは何かについて理解し、漏洩防止策について説明できる。			
13	医療事故		医療事故、院内感染について説明できる。 医療事故が発生した場合の対応について説明できる。			
14	研究によるエビデンス		研究の意義について説明できる エビデンスレベルについて説明できる			
15	救急救命(BLS)		救急救命法について経験する			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法概論テキスト		細田 多穂 監修		南江堂	
参考図書等	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版		千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精一郎(編)		神陵文庫	
	理学療法概論 第1版		庄本 康治		羊土社	
	リハビリテーションビジュアルブック		編集:稲川利光		学研	
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	理学療法士は制度の下で働きます。働くために必要な制度や視点を身近な事例から考えられるように想像力を深めてください。					

Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	基礎理学療法 I					
担当講師	松浦 優太				授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	理学療法的基础を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					
No	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	オリエンテーション		授業の進め方、レポート提出、グループワークの約束について理解する。			
2	基本姿勢と基本動作の概要		基本姿勢・基本動作について関連付けて理解する。			
3	基本姿勢		基本姿勢について、名称、肢位、支持基底面の広さ、姿勢の特徴について理解する。			
4	基本動作		基本動作について、動作を相分けして、肢位と運動方向、支持基底面の広さと重心の位置、動作の特徴について理解する。			
5	高齢者体験 ①		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
6	高齢者体験 ②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
7	高齢者体験 ③		体験した内容の感想を発表し、どのようなリハビリが適応となるか考える。			
8	動作観察①		動作困難な原因を仮説立案する。			
9	動作観察②		動作困難な原因を仮説立案する。			
10	筋と関節運動		筋の起始、停止、関節運動について理解する。			
11	ストレッチ		Ib抑制を用いたストレッチを体験し評価する。			
12	筋力増強訓練①		上肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。			
13	筋力増強訓練②		下肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。			
14	持久力増強訓練		Karvonen法と運動強度について説明し、体験する。 運動前後の生体反応について理解し、バイタル測定を実施する。			
15	筋力、持久力増強訓練のまとめ		筋力・持久力増強運動について理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
参考図書等	必要に応じて授業中に提示する。					
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート提出状況 (20%×1) 定期試験 (80%)にて評価する。		
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。					

講義科目	基礎評価学演習 I					
担当講師	田熊 希				授業時間数	60
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)		No	講義計画	行動目標(学習目標)
1	総論	①オリエンテーション ②理学療法評価とは		16	関節可動域測定 ⑤	①前腕 ②手指の関節
2	医療面接	①コミュニケーションとは ②医療面接とは		17	関節可動域測定 ⑥	①股関節
3	バイタルサイン ①	①バイタルサインとは ②バイタルサインの臨床的意義		18	関節可動域測定 ⑦	①股関節
4	バイタルサイン ②	①血圧・脈拍測定の実際		19	関節可動域測定 ⑧	①膝関節 ②足関節
5	バイタルサイン ③	①血圧・脈拍測定の実際		20	関節可動域測定 ⑨	①足部の関節 ②肩甲骨
6	触診①	①ランドマークの触診		21	関節可動域測定 ⑩	①頸部 ②胸腰部 ③その他の検査法
7	触診②	①ランドマークの触診		22	関節可動域測定 ⑪	①まとめと復習
8	形態測定 ① (総論)	①四肢長測定の意義・目的 ②四肢長測定(上肢)		23	関節可動域測定 ⑫	①まとめと復習
9	形態測定 ②	①四肢長測定(下肢)		24	反射検査 ① (総論)	①反射検査の意義・目的
10	形態測定 ③	①四肢周径測定の意義・目的 ②四肢周径測定(上肢)		25	反射検査 ②	①深部腱反射(上肢)
11	形態測定 ④	①四肢周径測定(下肢)		26	反射検査 ③	①深部腱反射(下肢)
12	関節可動域測定 ① (総論)	①関節可動域測定の意義・目的		27	反射検査 ④	①表在反射
13	関節可動域測定 ②	①肩関節		28	反射検査 ⑤	①病的反射
14	関節可動域測定 ③	①肩関節		29	理学療法評価の概要	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査における解釈と統合
15	関節可動域測定 ④	①肘関節 ②手関節		30	まとめ	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査のまとめ
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		松澤 正、江口 勝正		金原出版株式会社	
参考 図書等	ベッドサイドの神経の診かた		田崎義昭		南山堂	
授業 方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	知識として頭で覚えるだけでなく、実際に体を動かし、繰り返し練習して技術を習得するよう心がけてください。練習の際は、他者から指摘を受けられるよう、3人以上で行うことが望ましいです。					

講義科目	臨床評価学演習 I					授業時間数	30
担当講師	藤本 一美						
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病棟・診療所(訪問リハ含む)において理学療法士としての実務経験あり		単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する						
No	講義計画	行動目標(学習目標)					
1	オリエンテーション	評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる					
2	学生としての基本的な姿勢	実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～					
3	検査の目的と対象者への説明	検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる					
4	検査:バイタルサイン (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:バイタルサイン(脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用法、記録の実際)					
5	検査:バイタルサイン (実技テスト)	対象者にバイタルサインの確認(脈拍・血圧測定)を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
6	検査:バイタルサイン (実技テスト)	対象者にバイタルサインの確認(脈拍・血圧測定)を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
7	検査:形態測定 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:形態測定(四肢長と周径の測定方法、検査器具の取り扱いと記録の実際)					
8	検査:形態測定 (実技テスト)	対象者に形態測定(四肢長と周径の測定)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
9	検査:形態測定 (実技テスト)	対象者に形態測定(四肢長と周径の測定)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
10	検査:形態測定 (実技テスト)	対象者に形態測定(四肢長と周径の測定)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
11	検査:関節可動域測定 (実技練習)	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定(上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際)					
12	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
13	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
14	検査:関節可動域測定 (実技テスト)	対象者に関節可動域測定(上肢)を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる					
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	理学療法評価学		著者 松澤正・江口勝彦		金原出版		
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版		監修 才藤栄一		金原出版株式会社		
	PTOTのための評価測定 形態計測・感覚検査・反射検査 第2版		監修 福田 修		三輪書店		
	PTOTのための評価測定 ROM測定 第2版		監修 福田 修		三輪書店		
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験(60%)、提出課題(25%)、学修態度(15%)を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。						

講義科目	臨床実習 I (病院見学実習)					
担当講師	波多野 浩子				授業時間数	45
開講年次	夜間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。					
No	講義計画	行動目標(学習目標)				
【見学の概要】 チーム医療について学び、リハビリテーションの専門職としての知識・技術の重要性・必要性を確認することで、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解し、職業人として望ましい行動や態度を取ることができるように注意して行動する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。						
教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標 (認知領域) チーム医療について理解する。 (認知領域) チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を理解する。 (認知領域) チーム医療における他専門職の立場と役割を理解する。 (認知領域) 病院で働く理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを理解する。 (運動領域) 対象者との関係性構築に務める。						
教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患の症状・現象について見学し、自分の考えを他者に伝える。 (運動領域) 必要に応じてメモに書き留めることができる。						
教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患に対する評価や治療を見学して、自身の考えを他者に伝える。 (認知領域) 理学療法及び作業療法の一連の流れを理解する。 (運動領域) 必要に応じてメモを書き留めることができる。						
教科書	書籍名			著者	出版社	
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ 第3版			鶴見隆正 編集	医学書院	
授業方法	学内実習及び施設実習			成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価	
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。					